

県外派遣報告書

審判員名	堀口 拳	所属	U18西部
大会名	第54回関東中学校バスケットボール大会		
期間	2024年8月7日(水)～9日(金)		
会場	船橋市総合体育館(船橋アリーナ)		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月5日(月)	審判会議、研修会	ZOOM会議 自宅他	
8月7日(水)	男女1回戦	船橋市総合体育館(船橋アリーナ)	
8月8日(木)	男女2回戦、準々決勝	船橋市総合体育館(船橋アリーナ)	
8月9日(金)	男女準決勝、決勝	船橋市総合体育館(船橋アリーナ)	
会議 講義 内容			
<p>(1)挨拶 ○一般社団法人千葉県バスケットボール協会 専務理事 大野 健男 様 ○一般社団法人千葉県バスケットボール協会 審判部長 中嶽 希美子 様 ○関東バスケットボール協会 審判委員長 平原 勇次 様</p> <p>(2)指名審判員紹介・レクチャー ○一般社団法人東京都バスケットボール協会 六角 亜沙美 S級審判員 様 ▶リードの視野の取り方、ローテーションのタイミング ・ボールが行ったからローテするのではなく、「何を見たいのか」を明確にしてローテ →体や顔の向きで示すことでほかのクルーに見ているものを伝える ・ミラーザボールはディフェンスラインに ・クローズダウンやピンチペイントはあくまでもローテの準備であり判定の場所ではない ▶タイムマネジメント ・ショットクロックやゲームクロックを口に出して記憶する ・ショットクロックが20秒のときのゲームクロックを覚えておく</p> ○一般財団法人群馬県バスケットボール協会 岸 由貴 S級審判員 様 ▶選手やコーチとのコミュニケーション ・簡潔に短く ・「手を使うな」「～やめて」ではなく「手の使い方」「見てるよ」などの言い方 ・メラビアンの法則 →言語情報7% (言葉の内容や選択)、聴覚情報38% (話すスピードや抑揚)、視覚情報55% (表情や態度) ・「ありがとう」を伝える ▶POCを正しく判定するために ・正しい位置取り ・トレイルのPOCミスは多い→正しい位置にいない? ○一般社団法人栃木県バスケットボール協会 渡邊 諭 S級審判員 様 ▶信頼されるレフェリーとは ・正しい判定と姿勢 →ヴァイオレーションは確認、ファールは考え方 ・足を運んで自分の目で確認する→根拠と裏付けを。 ・1つ1つの判定を丁寧にすることが結果メンタルを保つことにつながる ・自分のプライマリーは自分で! →誰かがアングルをもっている、ではなく、自分で足を運ぶ ・ヘルプディフェンスを気にしすぎて広がりすぎな傾向がある →見るべきものは何なのかを明確に ▶リード ①ボールはどこか ②誰がヘルプになり得るか ③距離と時間を考えローテ開始 ※ボールと、次に関わるDFが誰かの確認を <p>(3) 審判割当確認</p> <p>(4)連絡事項 ・試合運営についての確認事項(チーム伝達事項) ・各係からの連絡(会場・輸送・宿泊・総務・その他)</p>			

実技				
担当試合	期 日	2024年8月7日(水)	男子 女子	男子1回戦
	対戦カード	太田(千葉)	VS 十日市場(神奈川)	CC U1 U2
	相手審判	CC:田中健二郎氏(東京) U1:矢崎勇人氏(山梨) U2:堀口拳		
ミーティング内容		主任 廣瀬俊昭氏(神奈川)		
<p>OPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム情報の共有。 ・Cサイドエントリー、トラップの際のクルーワーク確認。 ・リードローテーションのタイミングについて。 ・ヘルプDFのプライマリー確認。 <p>○試合後ミーティング</p> <p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライマリーの意識をもっと高めたい。 ・キーとなる選手のインテンシティーやフラストレーションをもっと感じる。 ・ビッグインパクトに対して笛がタイムリーで入っていないため不安がある。 ・リードのローテーションをキープレーヤーに合わせてもっと積極的に。 ・大会初日であることも踏まえ、TOの様子、表示のされ方、コーチやチームの雰囲気などを特に1Qで確認し、共有すべき。 <p><個人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リードのローテーションをもっとスムーズに(キープレーヤーの位置の把握)。 ・キープレーヤーのフラストレーションを感じとり、鳴らせるチャンスは簡単にコール。 				
担当試合	期 日	2024年8月8日(木)	男子 女子	女子2回戦
	対戦カード	敷島(山梨)	VS 志茂田(東京)	CC U1 U2
	相手審判	CC:穂川苑子氏(群馬) U1:菊田沙織氏(茨城) U2:堀口拳		
ミーティング内容		主任 久保あしみ氏(千葉)		
<p>OPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム情報の共有。 ・リードのローテーションのタイミングは「何を見に行くか」を明確にしてから。 ・マッチアップだけでなく、次に誰が絡むかを視野に入れる(2on2まで)。 ・影響が出るまでの分析をしっかりとってコールするか判断する。 <p>○試合後ミーティング</p> <p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに試合が進行してよかった。 ・鳴らすべきところには必ず誰かしの笛が入っており、崩れることはなかった。 ・プライマリーが鳴らすべきところをセカンダリーから入ってくるケースがいくつかあったが、プライマリーはどう見ていたか、プライマリーがコールしたい。 ・ファールバランスが偏りがちであった→どちらかにつけたファールやバイオレーションはもう一方にも同じことがあったときに逃さないようにしたい。 <p><個人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ起きた現象を判定するのではなく、ゲームの流れや点差、キープレーヤー、チームの意図などをもっと把握してコールすべきだと感じた。 ・TOは地元中学生が担当しており、ミスも散見されたが、必要な場面で訂正ができたのはよかった。 				

	期 日	2024年8月8日(木)	男子 女子	男子準々決勝
担当試合	対戦カード	高根(山梨) VS 豊田(神奈川)	CC	U1 U2
	相手審判	CC: 平原勇次氏(本部) U1: 安藤俊明氏(千葉) U2: 堀口拳		
ミーティング内容		主任 若林哲氏(埼玉)		
<p>OPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム情報の共有。 ・ヘルプDFのプライマリーについて確認(ペイントの外、センターサイドについてはヘルプであってもセンターのプライマリー)。 ・ビッグマンの守り方を注視する→肘へのヒットやダブルチームの有無など確認。 ・お互いの異質なプレーやイリーガルな手の使い方については、最初から指導していくつもりで。 ・スムーズな試合進行を。 <p>○試合後ミーティング</p> <p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに試合が進行してよかった。 ・ゲームの始めに、DFの体の当て方、手の使い方に対して2~3つ笛が入ったこと、声を積極的にかけて理解させたことで、その後異質なものは少なくなった。 ・鳴らそうと思えば鳴らせる現象も、被害者が出るまではコールせず、長く見ることができており、選手のより良いプレーを引き出せていた。 ・判定が間違っただけのものもあったが、決断したことが大切。OF、DFの両方が絡んでいる場合、どちらにつけるのか、お互いにつけるのか、選択肢をもっておく。 <p><個人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のエリアのプレーを、早くとらえて長く見ることが大切だと感じた →リバウンド争いで白が先に絡んだのに対し、対抗した青にファールをつけてしまう、など。 ・センターサイドのドライブやフィニッシュに対して、アングルの取り方を工夫すべき →フラットのままで見えないものもある。 ・リードのローテーションをもっとスムーズに →始めからクローズダウンを選択していい場面が多々あった。 				
全体の感想				
<p>この度は関東中学校バスケットボール大会に派遣いただきありがとうございました。2日間で3試合を担当させていただき、全国大会出場をかけた中学生やコーチ、サポートする保護者の方々の熱量を強く感じる大会でした。そういった大会のいったんを担ったことを非常に嬉しく思います。</p> <p>大会を通して、中学生の個人技術の高さに驚きました。たくさんの時間をかけて技術の研鑽を重ねた結果、この場でプレーしているのだろうと実感しました。沖縄ワールドカップやパリオリンピックでの日本代表が大きな活躍を見せてくれましたが、将来この中の選手がそういった舞台に立って活躍してくれるのではないかと期待も抱かせてくれました。</p> <p>審判としては、自分の長所も短所も出た大会でした。地元中学生がTOを担当していることもあり、ショットクロックや表示などに時折ミスも見られました。日ごろTO部として活動していることがそういった場面のTO管理や修正につながったかと思えます。課題については、試合の状況を客観的に把握して判定につなげることだと感じました。誰がキーマンであり、フラストレーションを抱えているのは誰なのか、どちらにどのようなファールがついていて、コーチや選手は何を気にしているのか、などといった情報を、もっと把握、共有して判定につなげなければならないと強く感じました。今後のそういったことをより意識して審判活動をしていきたいと思えます。また、大会中多くの審判員の皆様とお話をする中で、たくさんのアドバイスをいただくことができました。これまでお話をしたことがなかった方とも交流させていただくことができ、そういった意味でも非常に有意義な3日間となりました。</p> <p>最後になりましたが、眞榮喜審判部長をはじめ、埼玉県審判部の皆様、本大会に派遣いただきありがとうございました。そして、心温まる受け入れをしてくださいました中嶽様をはじめとする千葉県バスケットボール協会審判部の皆様、関東ブロック審判長平原様、ご講義いただきました指名審判員渡邊様、岸様、六角様、試合の担当を一緒にさせていただいたクルーの皆様、大会期間中お世話になりました審判員の皆様、TO、すべての役員の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。</p>				